

自主防災会だより

発行者：東生駒南自主防災会
発行日：令和 2 年 3月1日

第 22 号



自主防災会・自治会合同研修会を開催



地域の防災についてみんなで考えていこうと、有志のみなさんで、自主防災会を立ち上げ、基礎を創り育てていただいてから、およそ9年経ちました。

そして、自主防災会を自治会と一体化するということが総会で決議されて、丸2年が経とうとしています。

そこで、「**自主防災会を自治会と一体化**」するための活動として、昨年から「**自治会役員と自主防災会役員合同の研修会**」を持つようにしました。

今年は、さらに**一般会員の方にも研修会に参加**してもらおうと声をかけさせていただきました。もっともっと多くの会員様にも広げていくことが、私たちの責務と考えています。

阪神大震災、東日本大震災という大きな災害を直接、間接に経験し、その後も大雨、土砂災害、台風、大水害など立て続けに災害が起こっています。「**今まで経験したことのない**」とか、「**100年に一度の災害**」とかいう言葉が普通に聞かれるようになってきました。おまけに大雨の原因となる「**線状降水帯**」などというわけのわからない言葉も使われています。

この地域は、矢田丘陵の縁にあり、生駒断層と矢田断層の2つの断層に囲まれています。決して、**災害と無縁だとは言えません**。

昨年2月には、「震度7の生駒断層帯直下型地震が発生、」と想定、「生駒東小学校」を避難所として、被災者が続々と避難所に駆け込んできた想定して、その備えや対応について考えました。とっても戸惑い混乱しました。

そこで、今回は実際に**東日本大震災**で命がけで救助活動を体験された**生駒消防署消防隊員**さんの生の体験談をお聴きして、私たちの**防災についてのスキルを高める**研修を行いました。

当日は、あいにくの雨で出にくいところを、およそ30名の自主防災役員、自治会役員、一



般会員の出席で、消防隊員さんの話に聞き入っていました。

講師のみなさんは、東日本大震災の時、**緊急消防援助隊 第3次派遣隊**として出動された**生駒市消防署 指揮隊 消防司令 辻本英彦**様、また、**緊急消防援助隊 第1次派遣隊**として出動された**特別救助部隊隊長 消防司令補 盛保彦**様が中心になって「**東日本大震災救助活動に携わって**」という演題でお話



くださいました。第1次派遣隊が出動したときは長野県でも、地震が発生しており長野県での様子を確認したのち、福島県へ救助に向かわれたそうです。当時は**情報が錯綜**して、現地へ向かう道路もいろいろ**模索しながらの活動**であったようです。

現地での活動は、「**五感をフルに活用し、早期発見を目指す**」「**どこまでが安全で、どこまでが危険なのか**」「**訓練は裏切らない。現場は正直であり能力以上は出ない**」と心に言い聞かせながら、「**身体と心のケア**」に心がけての懸命の搜索でした。

「**誰が正しいのではなく、何が正しいのか**」「**マニュアルで<知っている>を<できる>に変えるの重要性**」など、その時その時に応じた現場での的確な判断が必要であるということ、「**災害経験を風化させてはいけない**」というお話をされました。



生駒消防署にある「**レスキュー車**」を見学させていただきました。この車の中には、地震で下敷きになったり、閉じ込められたりしたときの救出用具など様々な器具が装備されていました。

大きな災害が起こったときは、まず**自分の安全を確保**すること「**自助**」、ご近所**お互いに助け合うこと「共助」**が大切です。そのためにも多くの自治会行事などに積極的に参加して、日ごろから横のつながりを深めておきましょう。

わが地域で新しく防災士になられた方の紹介

— 助けられる人から助ける人へ —

災害が増えているなか、地域での防災リーダーが必須になってきました。

わが地域の **仲西靖夫**様が、防災について真剣に取り組み、防災意識を高めようというお考えで、「**奈良県自主防犯・防災リーダー研修**」を受講し、「**日本防災士機構**」の**防災士資格取得試験**を受験され、見事合格されました。

災害からの被害を最小限にとどめる、**地域防災力の担い手が「防災士」**です。

地域住民の一人ひとりが、防災と減災の知識や技能を身に着けて、災害に遭ったときには、地域の人々が協力し合って被災した人を救助したり、火災の初期消火等に努め、被害を最小限に食い止め、地域全体が、「**生き延びる**」ことが重要です。